

科学倫理・科学哲学

(春学期 2単位)

植原 亮

〈M〉

Ethics and Philosophy of Science

■授業概要

科学そのものを学問的に考察するにはさまざまなアプローチが可能ですが、この講義では以下のふたつの側面からアプローチしていきます。(1) 倫理的側面：科学の生み出す成果は人間社会にどのようなインパクトをもたらすか？(2) 哲学的・概念的側面：科学という知識には日常的な知識と異なるどのような特徴が見られるか？

この講義ではまず、急速に発展しつつある脳神経科学を主な題材に、(1)を検討します。次に、(1)と(2)の接合面に位置する問題として、科学と科学以外のものとの境界線の所在や、社会の中の科学的知識のあり方について考察します。最後に(2)について、個別科学を題材に、科学哲学上の問題を扱います。

(内容は状況に応じて変更を加える：初回の授業で説明する。)

■到達目標

科学を広く深く捉えるための観点にはどのようなものがあるのかを理解することが、この講義の目標です。また、関連する哲学上のトピックをところどころで掘り下げて扱います。

■授業計画

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 脳神経倫理①法と人間観
- 第3回 脳神経倫理②科学と刑罰
- 第4回 脳神経倫理③責任の行方
- 第5回 人間観の変遷①古代から中世
- 第6回 人間観の変遷②宇宙像の革新
- 第7回 人間観の変遷③科学革命期の哲学
- 第8回 脳神経倫理④エンハンスメント問題(社会的影響)
- 第9回 脳神経倫理⑤エンハンスメント問題(価値と人間性)
- 第10回 脳神経倫理⑥エンハンスメント問題(自己・人格)
- 第11回 科学哲学①導入編
- 第12回 科学哲学②基礎編
- 第13回 科学哲学③応用編
- 第14回 科学哲学④各論

第15回 まとめ

■授業時間外学習

授業内で紹介した文献に接してゐること。

■成績評価の方法

定期試験(筆記試験)の成績で評価する。

定期試験(100%)での評価を予定しているが、受講者の状況に応じてごくわずかな変更を加える可能性がある。(変更点については、第1回目もしくは第2回目の授業で説明する。)

■成績評価の基準

基礎的な知識の習得と概念の行使能力を基準とする。

■教科書

■参考書

『脳神経倫理学の展望』(勁草書房)信原幸弘、原塑
『道徳の神経哲学』(新曜社)苧阪直行

■備考